授業科目名	動物看護総合実習Ⅰ		科目コード	261017	
開講クラス	動物看護師学科	コース	動物看護師コース	学　年	1 年
担当教員	宮崎ペットワールドより委託を受けた各企業施設の指導担当者 実務経験教員（ 有 ・ 無 ） 実務経験内容： 各企業施設における実務担当しており、業務遂行に必要な知識や技能或いは資格を有する者。				
開講時期	前期・後期・通年・特別講義・その他			授業コマ数	90 時間
	必　須 ・ 選　択 ・ 選択必須			単　位　数	2 単位
使　用 テキスト１	書　名				
	著　者				
	出版社				
使　用 テキスト２	書　名				
	著　者				
	出版社				
参考図書	プリント配布（自己分析表・ポートフォリオ・評価表等）				
授業形態	講義 ・ 演習 ・ 実習 ・ 実験 ・ その他（　　）				

＜授業の目的・目標＞

実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。

＜実習の概要・実習方針＞

以下の工程で実施する。

（実習前教育とオリエンテーション）

1．学修成果指標を説明し評価の観点を理解させ、実習の工程・流れを理解する。

2．学生は自身の履修歴を振り返りながら自己分析を行う。

3．自己分析を基に、実習における目標の設定、成果をあげるための行動計画を立案する。

4．実習先の事前情報を入手し実習に備える。

5．ポートーフォリオの記録方法を習得する。

6．実習中の心得・守秘義務や遵守事項等の説明を行い、理解を深める。

（実習中）

1．実習指導者のもと実習を行わせると共に記録を行う。

2．必要な場合には、巡回指導者や実習指導者との連携を図る。

（実習後）

1．学生の振り返りの為にポートフォリオの整理を行わせ、記録に基づく自己評価を行う。

2．自己評価を基に次期課題設定を行い、必要な場合には発表やレポートを提出する。

＜成績基準・評価基準＞ 学生の自己評価・実習先評価を基に担当者が評価を行う。 評価基準は動物看護実習評価基準にて評価を行う。（別添）
＜注意事項＞ 担当教員については、動物看護実習の目的をよく理解し、あくまでも学生が主体であり、学生の成長を援助する役割を果たす事が重要である。従って通常授業の知識や技術の伝授ではなく、双方向のコミュニケーションによって学生に内在する潜在能力を導き出す事に留意する事。又、連携企業の実習担当者を含め上長にも学修成果の目的をよく周知する事。
＜授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他＞ ビジネス実務Ⅰ

授業科目名	動物看護総合実習Ⅰ ：1 回の時間数は施設によって異なる。	
回	授　業　内　容	備　考
1	事前学習：動物看護総合実習の目的と学修成果指標	
2	事前学習：学習歴確認と自己分析	
3	事前学習：動物看護総合実習目標設定と行動計画の作成	
4	事前学習：実習先の確認	
5	オリエンテーション：ポートフォリオ作成演習	
6	オリエンテーション：実習の心得、注意事項説明	
	（実習）委託契約の時間数で実習を行う。	
1	事後学習：ポートフォリオの整理	
2	事後学習：自己評価	
3	事後学習：時期学習目標課題設定	
4	事後学習：成果発表	

動物看護総合実習評価指標

実習目標	学習成果評価基準			
	4	3	2	1
履修科目学習内容を把握したうえで、企業や施設の概要理解や業務内容について体系的に理解を深め、実習の目的・目標設定を行う。	企業・施設の概況、職務内容を十分に理解しており、学習者としての行動活動に顕著な姿勢がみられ、次期課題設定も妥当である。	企業・施設の概況、動物看護師の職務内容を十分に理解しており、学習者としての行動活動も充分であった。	実習前後の取組がやや受動的であったが、職務内容は理解しており、次期実習では改善の見込みが期待できる。	学習者として能動的な姿勢がみられないため、企業・施設の概況、動物看護師の職務内容理解が不十分である。
履修科目の修得状況を振り返りながら、業務との関連付けを行い、必要とされる知識や技能を確認し、自己の分析を行う。	履修科目の修得状況が良好であり、業務との関連付けをも適切であり、実習の際必要となる知識や技能を有しており、自己分析も妥当である。	履修科目の修得状況が良好であり、業務との関連付けをも適切であり、自己分析も妥当である。	履修科目の修得状況にばらつきがあり、実習の際に必要とされる知識や技能が不十分ではあるが、業務との関連付けはできており、改善の余地はある。	実習の際に必要とされる知識や技能が不十分であり、かなりの努力を必要とする。
企業や施設における業務内容・職員間の連携や業務内容を理解し、必要とされる専門的知識や技能を発揮する事ができる。	指示内容を理解できる知識と技能を有し、指示内容の確認や記載ができる。実習中に習得した内容の整理、説明や発表内容も他に共感を与える事ができる。	指示内容を理解できる知識と技能を有し、指示内容の確認や記載ができる。実習中に習得した内容の整理、説明や発表内容も適切である。	指示内容を理解できる知識と技能を有し、指示内容の確認や記載ができる。実習中に習得した内容の整理、説明や発表内容に努力を要する。	指示内容を理解できる知識と技能をが不足しているため、指示通りに行動できない。
学習者として適切に行動できるように社会常識やマナーを実践する。	学習者としての態度・言動も適切であり、相手の状況や立場に合わせた、表情や態度で接する事ができる。実習先からも高い評価を得ている。	学習者としての態度・言動も適切であり、相手の状況や立場に合わせた、表情や態度で接する事ができる。	学習者としての態度・言動について指導を受けているが、改善範囲内である。	学習者としての態度・言動について再三にわたり指導を受けており、相当の指導を要する。
自己分析を根拠に個人の実習目的・目標を設定し、実習計画を立案する。また、実習中においては理解できた内容をポートフォリオを活用し記録と振り返りを行う。	実習計画が実習目的・目標に沿って立案されており、記録も丁寧で、振り返りの際の活用も実習前・後とで整理されており、実習で習得した内容が反映されている。	実習計画が実習目的・目標に沿って立案されており、記録も丁寧で、振り返りの際の活用も実習前・後とで整理されている。	実習計画は立案され、記録も行っていたが正確ではない面が見受けられるため、振り返りの段階で、かなりの労力を要した。	実習計画・記録とも不十分であり、振り返りの際の活用も十分活用できたと言えない。
実習中に提示される助言や指導を受ける中で、積極的な姿勢を示しながら実習に取り組む。	実習指導を受ける中で、積極的な姿勢と、指導者に対して伝えるべきことを明確に伝える手法を心得ており、報告手法も適切である。	実習指導を受ける中で、積極的な姿勢と、指導者に対して伝えるべきことを明確に伝える手法を心得ている。	実習指導を受ける中で、積極的な姿勢も見受けられるが、、報告がおろそかになる面があり改善が望まれる。	実習中に、積極的な姿勢がみられず、指導者に対して伝えるべきことも伝えられていない。
将来の目指すべき職業観を明確に持ち、どのように自己研鑽に取り組むかを明確にする。	職業人として、自己の実践をどのように発展させるのか明確な目標を持って、実習に取り組んでおり、普段の努力を継続している。	職業人として、自己の実践をどのように発展させるのか明確な目標を持って、実習に取り組んでいる。	職業人として、自己の実践をどのように発展させるのか結びついておらず、目標設定、実習に取り組む姿勢に努力を要する。	自己の職業観が曖昧な状況である。
職務に対しての職業倫理と社会的意義を理解する。	職業倫理を理解し、実習における目的・目標設定に活用し、社会的・職業的倫理に対して関心を持って取り組んでいる。	小公卿倫理を理解し、、社会的・職業的倫理に対して関心を持って取り組んでいる。	社会的・職業的倫理に対して関心を持って取り組んでいるが、専門的領域まで及んでいない。	社会的・職業的倫理に対しての関心が低い。